

昭和六十一年度 陵墓関係調査概要

陵墓調査室

調査の全容

古代の高塚式陵墓及び埋蔵文化財包蔵地内にある陵墓の営繕土木工事実施にあたり、当調査室は各陵墓監区の協力を得て、施行区域の遺構遺物の有無確認のためと、工法決定に資するため事前に事前調査や立会調査を行っている。昭和六十一年度には次の各陵墓地における工事箇所調査を実施し、遺構遺物の保存に万全を期した。

また本年度の石塔文献調査は京都市内四箇所で行った。

〔事前調査〕

一、三島藍野陵（大阪府茨木市太田三丁目）整備工事区域の調査（桃山監区 五～六月実施）

担当 笠野毅・土生田純之・中川幸信・森本芳博・北川秀樹・山田昭彦

二、大塚陵墓参考地（大阪府松原市西大塚一丁目・羽曳野市南恵我之荘

七丁目）外堤護岸工事箇所の調査（古市監区 十月実施）

担当 福尾正彦・中野順治・柴原博一

〔立会調査〕

三、畝傍山東北陵（奈良県橿原市）正門鉄扉修繕工事箇所の調査（畝傍監区 六～七月実施）

担当 中野雅之

四、山辺道勾岡上陵（奈良県天理市柳本町）余水吐危険防止柵取設工事箇所の調査（畝傍監区 七月実施）

担当 北田和夫

五、伏見桃山陵（京都市伏見区桃山町）御休所出入口柵改修工事箇所の調査（桃山監区 八月実施）

担当 舟瀬利昭

六、磯長墓（大阪府南河内郡太子町大字太子）周回道石柵改修工事箇所の調査（古市監区 八月実施）

担当 森本正哲・大平斉

- 七、宇治墓（京都府宇治市菟道）参道入口整備工事箇所への調査（桃山監区 八月実施）
担当 内海克己
- 八、畝傍山東北陵斎館浄化槽改修工事箇所への調査（畝傍監区 九月実施）
担当 中野雅之
- 九、泉山陵墓地（京都市東山区今熊野泉山町）崖地防災整備工事箇所への調査（月輪監区 十～三月）
担当 福尾正彦・曾田誠二・遠池良逸・小野隆
- 一〇、宇治陵（京都市宇治市木幡）第二三号排水溝取設その他工事箇所への調査（桃山監区 十一月実施）
担当 内海克己
- 一一、三島藍野陵整備工事箇所への調査（桃山監区 十一月、十二月実施）
担当 土生田純之・中川幸信・森本芳博・北川秀樹・山田昭彦
- 一二、畝傍山東北陵外正門角柱柵改修工事箇所への調査（畝傍監区 十一月～一月実施）
担当 中野雅之・大井康雄
- 一三、奈保山西陵（奈良市奈良阪町）境界線保護工事箇所への調査（畝傍監区 十一月実施）
担当 中村修也
- 一四、堀河天皇火葬塚（京都市北区等持院東町）排水柵取設工事箇所への調査（月輪監区 十二月実施）
- 担当 竹村哲也
- 一五、大塚陵墓参考地外堤護岸工事箇所への調査（古市監区 十二月、一月実施）
担当 中野順治
- 一六、畝傍山東北陵附属地域水路改修工事箇所への調査（畝傍監区 一月実施）
担当 中野雅之・富永浩
- 一七、花園西陵（京都市右京区花園扇野町）・嵯峨小倉陵（京都市右京区嵯峨鳥居本小坂町）見張所電灯設備工事箇所への調査（桃山監区 一月実施）
担当 畑隆夫（花園西陵）・伊藤繁和（嵯峨小倉陵）
- 一八、身狭桃花鳥坂上陵（奈良県橿原市鳥屋町）鳥居改修工事箇所への調査（畝傍監区 一～二月実施）
担当 坂本誠一・松谷良寛
- 一九、北白河陵（京都市左京区北白川追分町）鳥居改修工事箇所への調査（月輪監区 一～三月実施）
担当 大藪健司・藤井良章
- 二〇、伏見桃山陵御休所電灯ケーブル引替その他工事箇所への調査（桃山監区 一～二月実施）
担当 舟瀬利昭
- 二一、吉備内親王墓（奈良県生駒郡平群町大字梨本）鳥居改修工事箇所への調査

調査（畝傍監区 一～二月実施）

担当 池谷浩行・山本明利

三、円融寺北陵・後円教寺陵（京都市右京区竜安寺朱山）鳥居改修工事
箇所調査（桃山監区 二月実施）

担当 山田昭彦

三、大塚陵墓参考地外構柵取設工事箇所調査（古市監区 二～三月実施）

担当 中野順治・柴原博一

二、香隆寺陵（京都市北区平野八丁柳町）鳥居改修工事箇所調査（月

輪監区 三月実施）

担当 井口久徳・竹村哲也

以上の調査のうち、事前調査と一部立会調査は当調査室員と所管陵墓監区の調査担当職員とで調査を行い、大部分の立会調査は当調査室の指示の下に、所管陵墓監区の調査担当職員が行った。事前調査においては二箇所とも京都大学名誉教授有光教一氏、大阪埋蔵文化財センター理事長坪井清足氏、建設省土木研究所砂防部長藤田寿雄氏、奈良教育大学教授梅田甲子郎氏に現地検分を依頼し、考古学、土木工学、地質学の各分野から遺構保存工法について、それぞれ指導を受けた。また工事は調査結果、指導に基づいて、当庁京都事務所工務課が遺構・遺物の保存に留意して施工した。

一、三島藍野陵の整備工事に伴う事前調査及び二の同陵立合調査は工

事予定の外堤内法護岸箇所と樋門樋管箇所等の調査である。調査結果及び対応は後掲のとおりである。なお本陵の工事は昭和六十一年、二年度の二箇年にわたるものであるが、事前調査は全体を把握して工法を決定する必要からまとめて行ったものである。

二の大塚陵墓参考地調査は昭和四十一年に施工された護岸工事で一部残されていた箇所を実施するために行った調査である。詳細は後掲のとおりである。

立会調査は、既設箇所の改修工事の際のものが多し。三、五、六、八、三、一六、一八、一九、三、三は柵・鳥居等の修繕並びに改修で、掘削は既設物件の範囲で、厳密に調査をしたが、いずれも遺構遺物は認められなかった。

四は二箇所の既設余水吐に危険防止柵の支柱基礎坑を掘削したもので、現余水吐のコンクリートとその下の栗石の範囲にとどまり、遺構はなかった。

七の宇治墓参道では、現参道を築いた盛土層で遺構は認められなかった。

九の泉山陵墓地の調査は、昭和六十一年度防災工事が行われた同陵墓地南谷地区を実施したもので、仮設進入区域において高まりの認められる箇所は、深さ一〇―一五〇センチで岩盤が黄色土と共に検出されただけで、遺構は認められなかった。この岩盤は表面が洗濯板のような傾斜を示し、その窪みに岩盤の剥片と共に近現代の瓦・陶磁器片が見出された

ほか、工事箇所には遺構遺物ともに検出されなかった。

一〇の宇治陵第二三号箇所ではU字溝等設置場所を掘削したところ、いずれも表土の下は地山であることを確認、遺構遺物はなかった。

一五、三は大塚陵墓参考地での工事における立会調査であるが、外堤内法裾では事前調査の結果と同じである。外堤に沿った壁面には上端の幅三・六メートル、深さ一・七メートルのV字状の落込みが一箇所観察されたが、性格は不明である。

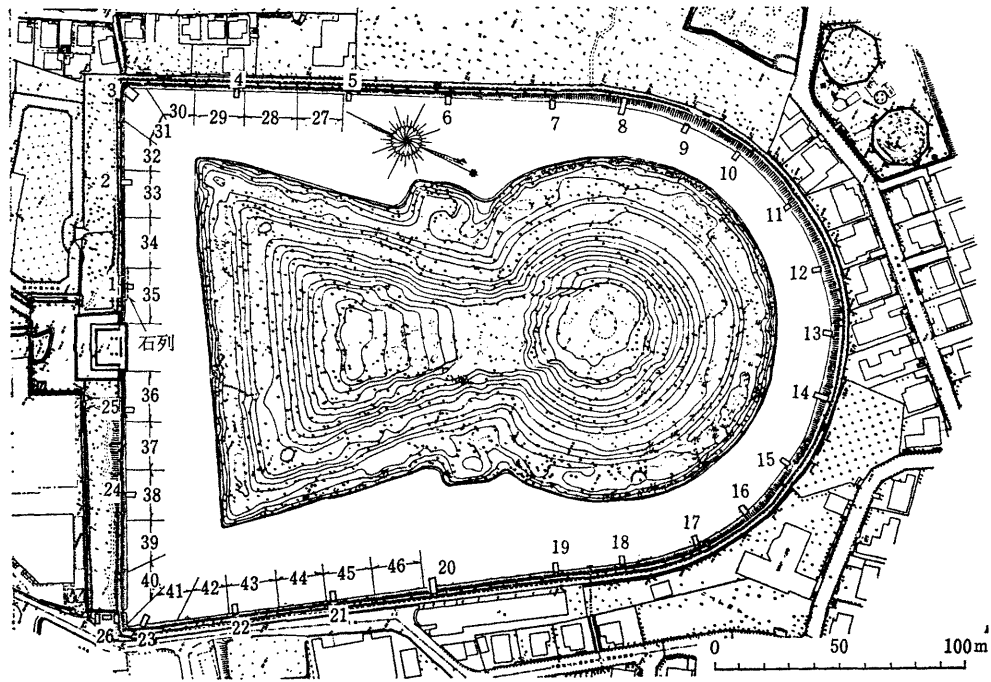
一三、一四、一七、二〇の各調査箇所は、いずれも後世の盛土層、攪乱層で何らの遺構遺物も認められなかった。

石塔調査は、京都市上京区清浄華院墓地内の後陽成天皇皇子冷雲院墓以下十八基については採拓し、同市右京区太秦にある後宇多天皇髪塔と後鳥羽天皇皇女礼子内親王墓、同市右京区浄福寺内の光格天皇皇女靈妙心院墓、同じく右京区三宝寺内の仁孝天皇皇子常寂光院墓の四基については採拓と実測調査を行った。

(飯倉晴武)

三嶋藍野陵整備工事区域の調査

継体天皇三嶋藍野陵は、全長二〇〇メートルを越す大型の前方後円墳で、前方部正面が南面している。該地は北摂山地の最南端にあたる。したがって、北に高く南に低い緩傾斜地で、外堤上では前方部側が約二メートル低い。周濠には水が滲えられており、雄大な墳丘にふさわしい景



第1図 三嶋藍野陵調査箇所の位置 (1/8000)